

# 弘前城石垣修理

## 第6回 ～石垣修理発掘調査～



発掘作業の様子（平成26年度）

発掘調査は、石垣を解体前と同じ構造に積み直していく前段階として、石垣の構造や本丸平場に残る遺構の状況を記録に残すため実施しているものです。平成25年度より、本丸東側石垣修理工事対象範囲700㎡において、本丸平場の面的な発掘調査を行っています。

昨年度までの調査の結果、築城時の慶長16年（1611）に築かれた本丸東側石垣の北端では、裏込（石垣裏側に詰められた玉石の層）が幅2m程度であったのに対し、元禄期（1694 - 99）に築かれたと思われる中央部の石垣では裏込の幅が1m弱程度と、石垣の築造時期により、裏側の構造に違いが生じていることが明らかとなりました。

今年度も同じ範囲において、平成25年度の成果をもとに更に掘り下げを行った結果、慶長16年築城時のものと思われる盛土層、明治27年（1894）以降の本丸東側石垣の崩壊範囲とそれに伴う石垣修理工事の様相が、徐々に明らかになってきました。

発掘調査範囲の西端（本丸中央側）では、ほぼ全域において橙色の粘土層が確認されており、現段階では、この土が弘前城築城時の土木工事で築かれた盛土と推測されています。江戸時代の記録によると、本丸東側石垣中央部分の長さ約70mは、元禄期に石垣が積み足されるまで土の斜面になっていました。発掘調査で確認された橙色粘土層も、内濠方向へ急勾配に落ち込むのり面となっていますが、元禄期の石垣積み足し工事や、明治期以降の石垣崩壊・修理工事の際に盛土層

が切土された可能性もあるため、今後はその点も考慮しながら調査を進める予定です。

また、明治～大正時代の石垣崩壊・修理に関わる成果についてですが、明治時代に描かれた「本丸天守閣石垣崩壊の図」には、天守台から北に十間半（約19m）の範囲で石垣が崩壊したと記録されています。発掘調査では、この記録とほぼ同じ範囲において、径20cmほどの玉石を多く含む白色粘土の広がり確認されました。この粘土層には、当時崩れた石垣石材が混入しています。更に、当時は石垣崩壊範囲よりも広く、天守台から北に40m付近まで石垣を積み直していることも判明しました。

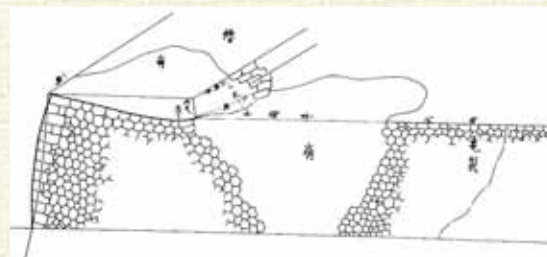


△明治～大正時代に石垣崩落部分を修復した盛土

平成27年度のさくらまつり後には、現在の発掘調査範囲の北側部分の精査を進めます。また、曳屋（ひきや）工事により天守が移動している9月中ごろには、天守台の発掘調査に着手する予定です。弘前城に残る江戸時代の痕跡を確認できるか、興味深いところです。※次回連載は、平成27年度に掲載を予定しています。



△築城時のものと推定される橙色粘土の盛土層



＜「本丸天守閣石垣崩壊の図」（明治時代、所蔵機関不明）明治時代に崩壊した石垣の破損状況を示した図。石垣の崩壊部分の寸法・位置や、亀裂部分の位置が分かる。

※弘前城本丸石垣修理事業について、詳しくは下記 URL をご覧下さい。

<http://www.city.hirosaki.aomori.jp/kanko/shisetsu/park/ishigaki.html>

■問い合わせ先 公園緑地課弘前城整備活用推進室（弘前公園緑の相談所内、☎33・8739）